

生徒指導だより

2026年7月14日

1学期がもうすぐ終わります。これまで一生懸命に努力してきた自分を、力一杯に
ほめて、認めて、価値付けてあげてくださいね！

8月の生活目標 「自主的で規則正しい生活を送ろう」

考え方や行動次第で、大きく成長できます！リフレッシュしながらも
成長できる最高の夏にしていきましょう！

<生活面について>

- (1) 自分の目標と生活設計（起床・就寝・学習・部活動・手伝い・遊びなど）を立てて、生活リズムを整えましょう。特に SNS 等の使用については、ルールについて家族と改めて確認しましょう。
- (2) 法令により、入場を禁止している場所の出入りをしないこと。また、危険な有害玩具の購入や使用をしないこと。
- (3) 夏休みは、時間的な余裕が多く生まれます。ぜひ、積極的に家族と対話をしましょう。
- (4) インターネットについては、マナーを守り、個人情報の取り扱いに注意するとともに、SNS やメール等により他人を誹謗・中傷したり、プライバシーを侵害したりすることなく利用しましょう。

<外出について>

- (1) 外出時は、どこへ、誰と、どんな用件で行き、何時に帰宅するかを必ず家の人と確認しましょう。
- (2) 友達の家での外泊はしません。夜遅くに歩くことはしません。（深夜徘徊に該当します。）
- (3) 犯罪被害防止の観点から、校区外への外出や飲食店・映画館・ボーリング場・カラオケレンタルルームへ行く場合は、保護者と一緒に行きましょう。ゲームセンター・ゲームコーナーは保護者同伴であっても行かないようにしましょう。
- (4) 交通事故や水難事故に遭わないために、ルールやマナーを守って安全第一で行動しましょう。特に 荒天時やその翌日などは、環境の変化に注意して安全な行動に努めましょう。
- (5) 地域の一員としての自覚を持った言動に努めましょう。鶴来中学校生としても良い印象を持ってもらえるように、さわやかな姿が見られると素敵ですね。
- (6) 自転車に乗る際は、ヘルメットを着用し、交通規則を守ること。
※R8年4月改正の自転車の交通反則通告制度の趣旨を理解し、交通規則を守ること。

<登校について>

- (1) 部活動を欠席する際は、必ず連絡をしましょう。
- (2) 登校する際は、制服もしくは体操服を着用しましょう。部活動で登校する際は、体操服や部活動時の服装でも構いません。

登下校中の事故、けが、トラブルにまきこまれた等、困ったことがあった時の連絡

< 学校 TEL 076-272-1616 >

※土、日祝日及び、8月11日（火）～8月17日（月）は学校閉庁日のため電話対応時間外です。

＜白山警察署からのメッセージ（楽しい夏休みを過ごすために）＞

① インターネットで知り合った人に会わない

- ・スマホは、とても便利ですが、危険もいっぱいです。
- ・SNSの世界には、優しいふりをしたり、嘘をつく悪い人もいます。
- ・SNSで優しく悩みを聞いてくれていた相手や、オンラインゲームで知り合った人に「家においで」と誘われても、行ってはいけません。誘拐されて家に戻れなくなるかもしれません。

② 裸の写真を送らない

- ・オンラインゲームやSNSで知り合った人に「裸の写真を送って」と言われても写真を送ってはいけません。
- ・相手が誰でも、裸の画像や人に見られて困る画像は絶対に送ってはいけません。「言うことを聞け、写真をばらまくぞ」と脅されて被害に遭うことがあります。
- ・一旦ネット上に流出すると、写真をすべて回収することは不可能です。

③ いじめ防止

- ・SNSで人をからかったり、悪口を書いたり、メッセージのグループから誰かを仲間外れにしている人はいませんか？それはいじめです。やめてください。
- ・嫌がる友達の裸の写真をとること、その写真を拡散することは、犯罪行為です。絶対にしてはいけません。
- ・軽い気持ちで書き込んだ言葉が、相手の心を深く傷つけ、追い詰めてしまうことがあります。

「SNS 投稿前に 一呼吸」

もし自分が同じことを書かれたら、どんな気持ちになるんだろう？書き込む前に、必ずそのことを考えてください。

④ 交通安全

- ・自転車に乗るときは、ヘルメットを着用しましょう。自転車の事故では、頭部の損傷が致命傷になるケースが半数以上です。ヘルメットを着用することで命を守ることが出来ます。
- ・自転車も信号や一時停止などの交通ルールを守って、安全に乗りましょう。

安全な夏休みを送るために…

※農業用の用排水の危険性

ゲリラ豪雨などが発生すると、一気に水路の水位が高くなるなど、大変危険なので、**農業用の用排水**などへは近づかず、絶対に遊ばないこと。

※河川水難事故防止

河川水難事故の割合が年々増加傾向です。特に中学生以下に注目すると、「河川」での**水難事故**の割合が、全体の58%と半数以上です。子供だけで絶対に行かないこと。